

矢掛高必修教科「やかげ学」導入5年



実習で園児を優しく癒かし付ける矢掛高校生＝矢掛保育園

情報伝達能力が向上

矢掛高校(矢掛町矢掛)の生徒が地域の教育、福祉施設などで約1年間実習する必修教科「やかげ学」が、導入から間もなく丸5年となる。コミュニケーション能力の向上、責任感の醸成を目指す、県内の高校では珍しいキャリア教育。受け入れ先からも評価の声が上がっており、着実に成果を挙げているようだ。

やかげ学は地域に根差し、特色ある学校づくりの環境で2010年度にスタートした。普通科総合コース2、3年生が履修。町の歴史や文化、行政施策などを学んだ後、2年の2学期から3年の夏にかけて週1

回、約2時間ずつ実習する。14年度は、2年生75人が小学校や美術館、介護老人保健施設など14カ所で実習中。昨年末、地元の矢掛保育園の4歳児クラスには女子2人が訪れ、絵本の読み聞かせや掲示物作り、園庭の清掃に臨んだ。

お昼寝の時間には布団に入った園児の傍らに座り、背中にトントンと手を当てながら癒かし付けた。「目配りしながら多くの仕事をこなすのは大変。子どもが好きなだけではためな仕事と分かった」と実習生の寺岡那奈さん(17)。

長期実習は将来の進路を描くための刺激にもなっ

地元教育、福祉施設で1年実習受け入れ先評価

と受け入れ先の一つ、農業体験施設の職員男性は言う。

14年12月には3年生による実習成果の発表会があった。「積極性が足りない面があった」「あいさつや言葉遣いなど人付き合いの基本を大切にすることがある」といった反省が次々と飛び出し、課題も見えてきた。

やかげ学担当の濱田好宏教諭は「受け入れ先にあえて苦言を呈していただいたり、上級生と下級生が意見交換する機会を増やすなど内容を毎年充実させ、より効果的な実習にしたい」と話している。(金屋雅巳)

岡市 宅地開発進み転出者減少

人口推移を算出、比較は変わらないが、調整区域の開発面積は08年は、廃止前5年の計1

郷土史知るきっかけに

岡山の渡辺さん 3月刊行 収集写真まとも冊子

岡山市中心部の郷土史料を長年収集している岡市北区表町、会社



全 県 版

いるもよう。矢掛保育園での実習を機に保育士を志すようになったという3年国定帆乃佳さん(18)は「やりがいと苦勞の両方を感じられたのは長期実習ならでは。皆さんの仕事ぶりから理想も見つかった」と話す。

矢掛高校によると、生徒の目まぐるしい人間関係は学校と家庭が中心だが、長期の実習を通じ、次第に自分の考えを伝えたり、自らの立場や能力を客観視する能力が芽生えてくるという。

「最初是指示を待つ姿が目立つが、実習を重ねるごとに、できる仕事がないか相談してくるようになる」

53項目の出生率など

県子ども・子育て会議(会長・佐藤和順県立大教授)は16日、県庁で第5回会議を開き、県が少子化対策や子育て支援策を充実させるため策定中の次期岡山いきいき子どもプラン(2015〜19年度)の案を了承した。県の合計特殊出生率(1人の女性が生涯に産む子どもの数)など53項目の数値目標を盛り込んでいる。

案では、県民意識調査を踏まえて既婚者や結婚を希望する未婚者

自立支援介護の方まで六十才から入居できる施設  
**ケアハウスあいの泉**  
 地域密着型特別養護老人ホーム  
**あいの泉** 併設 短期入居生活介護  
 岡山市玉島7丁目19番地  
 ☎0861525-5002